

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	神学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育目標に基づいたディプロマ・ポリシーを策定(設定)する。	→ディプロマ・ポリシーの明示・公開(2011年度までにWEB等の広報媒体、履修指導への反映[心得に掲載])。	B	A	A	A	A
2. ディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラム・ポリシーを策定(設定)する。	→カリキュラム・ポリシーの明示・公開(2012年度までにWEB等の広報媒体、履修指導への反映[心得に掲載])。	C	B	A	A	A
3. ディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシーを踏まえて「履修モデル」を学生へ提示し、検証する。	→「履修モデル」の提示・公開と検証(2012年度までにWEB等の広報媒体、履修指導への反映[心得に掲載])。	B	B	A	A	A
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)は、神学部の教育目標に基づき2010年度に教授会において設定し、それ以降、WEBサイト上に公開している。さらに毎年度学生に配付する『履修の手引』にも掲載し、履修指導に活用している。いずれの掲載もカリキュラム・ポリシーとの関連性に留意した明示方法をとっている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2010年度、早々に設定したディプロマ・ポリシーとの関連においてカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施方針)を検討・設定し、さらにその設定作業を通して、ディプロマ・ポリシーの再検証・見直しを行うという有機的・相互補完的な関係を築くことが出来た。ディプロマ・ポリシーを毎年度の新入生にいかに関知させるかが、継続的な課題である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 課程の修了とその意義を明確に意識させるため、特に新生の履修指導(オリエンテーション)において、早期の認知・理解を図る。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2010年度にカリキュラム研究委員会(学部)での検討を経て教授会において設定し、それ以降、WEBサイト上に公開している。さらに毎年度学生に配付する『履修の手引』にも掲載し、履修指導に活用している。いずれの掲載もディプロマ・ポリシーとの関連性に留意した明示方法をとっている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 授業担当者がカリキュラム・ポリシーを、カリキュラム・マップと併せてシラバス作成の際に参考としている。科目の目的や到達目標など授業内容を、学生の理解しやすさを意識してシラバスを作成するようになり、それが一定程度の成果をみていると認識している。2013年度春学期授業評価においては、授業を履修した理由として「内容(シラバス)に関心があった」が、「必修科目(卒業要件)であった」に次いで28.6%、毎回おおむねシラバスに沿って授業が進行していたかの問いに対する肯定的回答が4.31ポイント(最高5.0ポイント)であった。一方で毎年度の新入生には、カリキュラム・ポリシーをいかに関知させるかが継続的な課題となっている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か ディプロマとカリキュラムの関係性を明確に意識させるため、特に新生の履修指導(オリエンテーション)において、早期の認知・理解を促していく。2015年度に予定されるカリキュラム改編においては、ディプロマ・ポリシーや設置科目との関連において、カリキュラム・ポリシーの適切性を再検証する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 履修コース別に「履修モデル」を作成、また補足資料として専門領域別に「履修が望ましい」科目を明示し、学部WEBサイト上で公開している。さらに毎年度学生に配布する『履修の手引』にも掲載し、学生の学修計画の指針として履修指導に活用している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学生の履修計画を導くものとなり、自らの目標・関心に相応しい履修の指針となっている。一方で「履修モデル」を毎年度の新入生にいかに関知させるかが課題である。また、カリキュラムの改編に際しては、「履修モデル」も見直しを行わなければならない。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も継続して、履修指導、特に新生オリエンテーションにおいての説明を工夫し、その理解を促していく(各専門分野の教員による説明など)。また2015年度予定されるカリキュラム改編を機に、卒業要件および領域における学修到達度(授業内容)双方の観点から「履修モデル」そのものの見直しを図る。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆